130年ぶり 高倉人形浄瑠璃

地元有志7年かけ若手育成

郡山市日和田町の高倉地区でかつて行われていた伝統芸能の人形浄瑠璃が、約130年ぶりに〝復活〟する。一度は途絶えた地域の芸能を次代につなげようと、地元有志らが7年余りをかけて技を磨き、若手の育成に努めてきた。有志らでつくる「高倉人形浄瑠璃座」は3月9日に市内で発表会を開き、復活を宣言する。

山清寺に伝わった「高倉人形」。県の重要有形民俗文化財指定を受けている（郡山市文化振興課提供）

人形浄瑠璃は「大夫」による浄瑠璃語りと三味線の演奏に合わせた人形劇で、江戸時代に上方（京都や大阪）を中心とする地域）で始まったとされる。同市日和田町にも江戸から明治時代にかけて劇を演じる一座がいて、会津や仙台などに出向いて興行していた。しかし、一座は1893年ごろに解散。人形など道具一式だけが日和田町高倉の山清寺に伝わっていた。

「高倉人形の伝統を継承し、地域をつなぐきっかけにできないか」。2017年、当時日和田公民館長だった井上まゆみさん(67)は震災と原発事故で浜通りの伝統芸能の継承が危ぶまれている状況を目の当たりにし、地域の伝統が失われることに危機感を抱いた。日和田郷土史会長の仲本武司さん(84)らと話し合い、復活に向けた歩みを始めた。

2人は有志と共に「復活！高倉人形プロジェクト実行委員会」を発足し、人形浄瑠璃を体験するワークショップなどを企画。地元の小学生などにも参加を促し、札幌と東京の一座から師匠を招いて17年秋から稽古を始めた。

経験者は一人もいないゼロからのスタート。演目は一般的に残されているものを学んだが、現存する高倉人形は老朽化が進み、公演には新たな人形が必要になるなど資金面でも困難にぶち当たった。そんな中でも県青少年教育振興会から助成を受けるなどしてなんとか活動を続け、今では市内外のイベントで発表できるまで技量を高めた。

団体名は23年に実行委から高倉人形浄瑠璃座に。会員約40人のうち12人が小学5年～大学生だ。昨年から活動している高木春暢さん(11)＝日和田小6年＝は「いろいろな人と話したり、人形を動かしたりするのが楽しい。活動をこれからも続けたい」と話す。

若手の育成が進み、継承に一定のめどが立ったことから一座は3月の発表会の冒頭、復活を宣言することにした。今後は市の重要無形民俗文化財指定も目指す。現在は一座の会長も務める仲本さんは「若い人にどんどん参加してもらって伝統をつないでいきたい」と力を込める。（大内雄）

一座の稽古で人形の動かし方の指導を受ける高木さん(奥)ら＝郡山市・日和田公民館

▲ 2月25日 福島民友新聞掲載

高倉人形浄瑠璃の復活は、誰がどんな思いを持ったからですか？

復活宣言に向けて、どのような経過や苦労がありましたか？

人形浄瑠璃の特徴や歴史について、ネット等で調べてまとめてみましょう

「ジュニア窓」にとうこうしよう　福島民友投稿のページ「窓」に送る